

サケを釣り上げた参加者
白山市養助の手取川右岸



サケ釣りを一般開放する手取川サーモンフィッシング(サケ有効利用調査)は29日、白山市養助の手取川右岸で始まり、待ちわびた県内外の太公望37人が雄雌計19匹の釣果を上げた。

参加者は手取川支流の熊田川合流地点から約800m上流までの区間でさおを並べた。初めて参加したかほく市指江の会社員細川健太さん(28)が体長71cmの第1号を釣り上げた。遡上のピークは

白山・手取川右岸で調査開始

コロナで期間短縮

サケ釣り 初日19匹

11月上旬とみられる。調査は市などで行う手取川サケ有効利用調査実行委員会が11月23日まで実施する。許可を受けた参加者が1日当たり雄5匹まで、雌は何匹でも釣ることができ、雌は採卵用として県水産総合センター美川事業所に提供する。

今年には新型コロナウイルス感染症防止に配慮して期間を例年より6日間短縮し、グループ参加の定員も4人から3人に抑えた。

釣り人 遡上するサケ狙う



有効利用調査、手取川で始まる

手取川を遡上するサケを釣る手取川サーモンフィッシングが二十九日、白山市養助の手取川右岸で始まった。県や白山手取川漁協など

をた白でサケ上げ一雄のり加者山市養助

で行う実行委によるサケ有効利用調査の一環。サケは一日五匹まで釣ることができ、雌が釣れた場合、採卵のため、県水産総合センター生産部美川事業所に提供される。

午前七時の開始直後、かほく市指江の会社員細川健太さん(28)は七一センチの雌を釣り上げた。細川さんは一釣具店でボススターを見て初参加した。魚影が濃い浅瀬を狙って投げたらカッパと強く引いたと話していた。

参加者は競い合い、ついに釣り上げ、午後三時半までに計十九匹(雄十二匹、雌六匹)を釣った。

遡上のピークは十一月上旬ごろの見込み。調査期間は同二十三日まで。

(吉田拓海)